



ヨーロッパの街並みを眺め、これからブラハ市街の散策に向かう楠学園の生徒たち。

飛行機が日本を出たのは午前10時15分。それから10時間以上飛んだにもかかわらず、到着したのは午後2時半。その時日本の時刻は午後8時半を指している。そう、私たちは7時間のタイムスリップをしたのだ。子どもたちは入国審査の際の受け答えを練習して来ていたのだが、その必要もないくらいあっけなく入国審査もパスして、無事ポーランドに入国することが出来た。子どもたちに初めての海外はどうかと聞いてみたのだが、これといった答えは返ってこず、あまり感動したというわけでもないらしい。長旅の疲れで周りを見れば余裕もないのだろう。それもそのはず、日本にいたらもう寝ている時間なのだ。だが、これで終わったわけではない。これからチエコのブラハへ向かうべく、また3時間後に飛行機に乗らなくてはならない。私もさすがに一日で2回飛行機に乗るのは初めての体験だ。チエコのヴァーツラフ・ハヴェル空港行きの飛行機は小型のプ

ロペラ機でそこから見える景色は東京で見た景色とは打って変わって、畑がずっと広がっている中を赤い屋根が点々としている。見ているだけで頭の中にカントリートドが聞こえてきそう。一時間半ほどのフライトを経てブラハに着。今日の宿泊先であるユースホステルに向かった。そこに着いた



景色を見る為、自分よりも高い城壁によじ登るはじめ君。うわ〜すごい!と感動していた



赤い屋根と木々の緑が色鮮やかさを演出するお城から見たブラハの街並み



チエコの伝統料理スヴィチュコヴァー牛肉の上に生クリームとジャムが乗っておりそれを野菜のソースと絡めていただく

ころにはもう子供たちの疲れはピークに達している。次の日はブラハ市街の探索だ。そう思いながら私達は床に就いた。6月12日、今日のスケジュールは主にブラハの観光と今回の目的地であるポーランドのヤノヴィチエ・ビェルキエ村に向かうことだ。観光の準備をしてブラハの街に繰り出すと、石作りのいかにもヨーロッパというような美しい建造物と可愛らしい赤い色の三角屋根が目に入ってくる。そこにヨーロッパの人たちのセンスを感じる。子どもたちも「映画みたい!」「綺麗!」と各々の思いを口に歩き出した。ブラハの町を案内してくるのは、楠学園の大ファンのかつらさん。ブラハのお城や大聖堂など、色々な名所を案内してくれた。また、ブラハのお城には大統領のオフィスがあるらしく、そのためか周りには軍人が取り巻き、入るには空港同様セキュリティチェックを通らなくてはならない。しかしその苦勞の先にある景色は本当に言葉にしても伝えきれないほど美しく、見る者を魅了する。一通りいわゆる名所と

いわれる場所を見終わった後は、子どもたちのお腹も限界。近くのお店でチエコの伝統料理を頂くことに。そのお店はワイン樽の中身をイメージした造りになっており、薄暗い店内に木で出来た机の上を蠟燭が優しく光を灯している。狙っているのが、座るときも椅子がよりその場の雰囲気を引き立てている。そんなお洒落なお店が出てきたのは、Goulish (グライシユ) という牛のシチューとSvířková (スヴィチュコヴァー) という牛肉と野菜のソースに生クリームと克蘭ベリーのジャムが乗っている不思議な料理だ。グライシユの方は牛の出す汁とスパイスの香りがよく出ている。美味しかったのだが、スヴィチュコヴァーはジャムや生クリームに肉というのがそもそも日本人になじみがない。新鮮味はあったのだが、万人向けではないと思う。子どもたちも一部を除いては不評だったようだった。こうしてチエコの伝統にも触れたところで、私たちは車に乗り込みヤノヴィチエ・ビェルキエ村に向かう。

スケジュール

一日目

- 10:45 鹿児島空港集合
- 11:30 鹿児島空港発
- 13:10 羽田空港着
- 16:15 ホテルチェックイン

二日目

- 06:30 ホテルで朝食
- 07:15 ロビー集合
- 08:15 成田空港チェックイン
- 10:15 成田空港発
- 14:25 ワルシャワ着 (FLトリック・ジョンソン空港)
- 17:50 ワルシャワ発
- 19:15 ブラハ着

三日目

- 午前 ブラハ市内散策
- 午後 車にて ヤロビチエ・ビェルキエ村へ